

総合スポーツセンター陸上競技場再整備事業

受賞機関 千葉県県土整備部施設改修課

事業の概要

当陸上競技場は、昭和41年7月の開設以来、昭和48年に開催した「若潮国体」での主会場をはじめ、県を代表する陸上競技場として数多くの競技会で利用されてきた。約40年の経年による施設の老朽化が進み、耐震補強の必要性も生じたため、平成15・16年度の2ヵ年で耐震改修及び内外装改修工事を行った。

施設概要

- 主要用途：観覧場
- 構造：鉄筋コンクリート造
一部鉄骨鉄筋コンクリート造
- 階数：地上3階建て
- 延べ面積：10,318㎡（観覧席含む）
- 事業期間：平成15年10月～平成16年11月
- 事業費：約15億円

事業の特徴

今回の事業においては、既存の構造躯体を生かし、公共施設として求められている機能を確保するため、次の事項を重点とした改修工事を行った。

耐震性能向上のため、既存スタンドのSRC屋根を撤去し、膜構造による軽量化を図り、鉄骨ブレース

及び耐震壁の新設、鋼板巻き柱補強を行った。

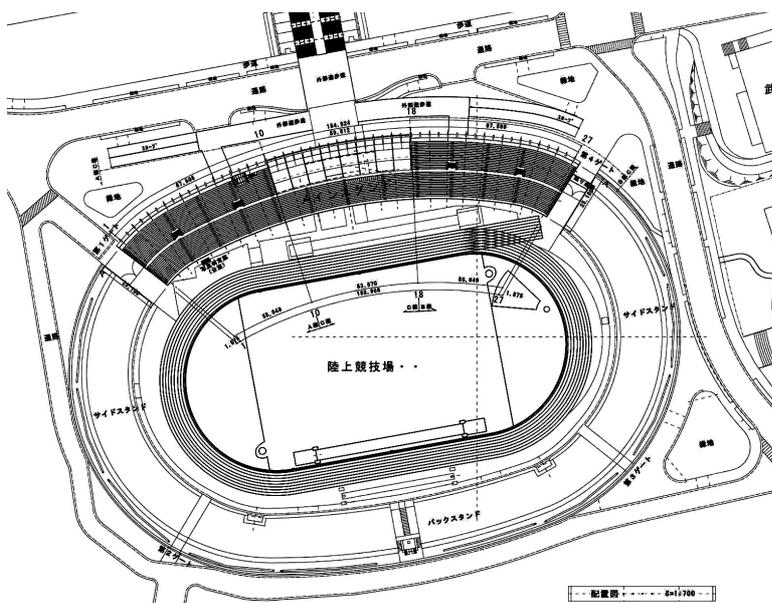
老朽化への対応として、防水、内外装、電気設備、給排水衛生設備、空調設備等の改修工事を行った。また、竣工当初のデザインを残すとともに、山武杉の間伐材を腰壁等に使用し、県内産材料の使用に努めた。

バリアフリー対応のため、「ハートビル法」及び「千葉県福祉のまちづくり条例」に基づき、床の段差解消や手摺の設置をはじめ、身体障害者用のエレベーター、観覧席、トイレ、更衣室、シャワー室等を整備し、施設利用者への利便性を図った。おわりに

これまで親しまれてきた当施設のイメージを損なうことなく改修工事を終え、平成16年11月23日に行われた国際千葉駅伝を皮切りに、平成17年8月には全国高等学校総合体育大会（千葉きらめき総体）での主会場にも予定され、今後より一層利用されることを期待しているところである。

今回の改修工事費は1㎡当たり約15万円であり、類似施設の新築工事と比較して1/2以下となることから、費用対効果の高い事業であったと思われる。

賛助会員 株式会社熊谷組関東支店



メインスタンドの膜構造屋根



耐震補強部の鉄骨ブレース